



## 変わりやすい者であるにもかかわらず、一生涯神様にささげたい

汚れなきマリア修道会のシスター チャウとニュオン



去る2021年7月31日に終生誓願を宣立しました汚れなきマリア修道会のシスターチャウとシスターニュオンです。新型コロナウイルス感染拡大のため、マリアニスト家族の皆さまとご一緒にお祝いすることができなくて、大変残念に思っています。今この場をお借りして家族の皆さまに感謝の気持ちをお届けしたいと思います。これまで私たちのためにお祈りと応援してくださいましたことを感謝いたします。家族があることは心強く感じています。

この間、私たちは自分たちの召命の歩みを振り返る時をいただきました。考えてみると私たちはある意味でアブラハムのような者でした。年を取った彼が神の言葉に従い、未知の土地に旅立ったように、若い私たちもベトナムから直線距離3600kmぐらい離れている日本に招かれました。

ちょうどベトナムで日本語を勉強していた時に東日本大震災が起きました。そのため、多くのクラスの友達が日本に行くことを諦めてしまいました。「地震が多い日本にまだ行くつもりですか」とよく聞かれましたが、どこに行っても神様の御摂理の中にあると単純に答えました。私たちは日本に行くように呼ばれていると感じ、信仰のうちに日本に来ました。

あっという間に10年経ちました。思い返すとアブラハムはずっと信仰のうちに過ごされましたが、私たちは日常生活の中で困難に出会うとすぐ挫けてしまう自分の弱さに直面したことがたびたびありました。自分の召命を疑う時もありました。何という弱者でしょうとしみじみ感じていました。そのような時には聖堂に行ってお聖体のイエス様の前で静かな時を過ごしていました。その度に自分がどれほど神様に愛されているか、神様の愛は何と偉大でしょうということをつくづく感じていました。それは神様のお恵みと、陰で祈ってくださっている方々のお陰だと確信しています。自分は独りぼっちではなく必ず誰かが支えてくださっていると感じそこからまた元気をいただいて新たな気持ちで再出発しま

した。そのような体験を繰り返して今日に至りました。

これからもまた色々な困難に出会うでしょう。今後とも皆様のお祈りと支えをよろしく願いいたします。自分たちが弱いと知りながらも一生涯イエス様についていきたいと心から望んでいます。終生誓願ミサで歌っていた拝領の歌「主よ、私の生涯をあなたに捧げます。私の心は小さく変わりやすいものであるにもかかわらず、あなたはずっとこの私を愛してくださいませ。」

主よ！あなたに感謝します。あなたの愛に感謝します。これからの日々もあなたの愛をたたえるものとなりますように」と同じように、これからもその気持ちをもって日々を過ごしたいと思えます。



▲菊地大司教様とチャウ(左)とニュオン



▲諸聖人の連願前の祈り



▲誓願式後、大司教様と共同司式をしてくださった司祭たちと共に。

# 「マリアニスト教育の背景にある靈性」とは

マリア会司祭 青木 勲

「マリアニスト教育の特徴」の改訂版の意図と背景の続編です。

今回は、先ず、「靈生」と「靈性」と言う言葉の区別をします。「靈生」は、広い意味での信仰者としてのあり方と言えます。しかし「靈性」は、靈的生活の活性化や成長のための手段として固有の特徴または他と区別する特質を意味します。日本的に言えば「～風」とか「～流」と言えるでしょう。例えば、イエズス会の靈性、フランシスコ会の靈性、カルメル会の靈性等です。

さてこれからマリアニスト教育を支えているマリアニストの靈性について考えて見たいと思います。私たちにっては以下の3要素が必須条件です。

①マリア様のような信仰、②信仰共同体の構築、そして③宣教への強い願望が大切です。

①マリア様のような信仰とは、「神にはできないことは何一つない」という天使の言葉に対して「フィアット」とお答えになったマリア様の心の信仰を真似ながら、同時に、知性による同意を伴ってイエスの「救済のみ業」の実現のための奉仕に尽力することを意味します。



②マリアニストの靈性は、個人としてだけではなく、共同体を形成しながら、多様性の一致と相互補完の原則を大切に、祈りと聖体祭儀に培われた信仰と、貧しい人や援助を必要とする人々と連帯して希望と喜びに満ちたエルサレムの共同体の姿を浮き彫りしようと努めます。しかも全ての人を包むマリア様の眼差し（顔）のもとに、自由で人間味ある共同体を築きながら社会の福音化に協力していきます。



③マリア様は、私たち一人ひとりをキリストの似姿にかたち作り、一人前になると「彼があなたに言うことは何でもしてください」と言うカナの奇蹟の言葉を根拠に、世の終わりまで、しかも世界の隅々にまで派遣されることを使命として引き受けます。



カナの奇蹟

「あなた方は皆宣教師です」と言う福者シャミナード師の言葉は、私たちが、キリストの弟子であり、同時に宣教師であり続けるマリアニストの召命の神髄をなすものです。

男女マリア会は、創立当初から、教育活動を宣教活動の主要な手段としてきました。そこではマリアニストの靈性

が、教職員のあり方に大きな影響を与えるべきだと考えてきました。信仰を持った教職員は、神の似姿である児童・生徒ひとり一人を尊敬し、忍耐と愛をこめて接するよう求めます。神様が全ての人を愛しておられるのを受け止め、児童・生徒たちに単には知識の伝達だけではなく、他者への思いやりと理解のある心を持つ児童に育てます。同時に、各自の個性を十分活かした総合的な人間（知的・良心的・教育的）として成長できるよう忍耐強く同伴することを大切にしてきました。

教育活動は、持続的な事業だけに有能な後継者を育成していく義務と責任があります。

教育の現場に携わる日本地区の会員達の高齢化と召命の減少の結果、近い将来における学校経営とその運営の持続性が最大の課題です。それで最終回は、マリアニスト教育の特徴を深く体得しておられる先生方の現実的な参加と協力について考えたいと思います。



SM

## マリア会ニュース

- 8月：6～7日 地区会議
- 9～15日 大黙想
- 10月：18～19日 召命司牧・養成担当者会議
- 20～21日 宗教部・宗教研修会
- 11月：17～19日 マリアニスト・スクール連盟（長崎）
- 12月：27～28日 地区集会

※コロナの状況で予定は中止になることも十分考えられる。

「マリアニスト・スクール宗教部・宗教研修会」

10月17～18日中

青木 勲

## 「マリアニストとして生きる」Y・Iさんに伺ってー

隔週で行われている「一年間かけて旧約と新約聖書を通読しよう」というオンラインでの集まりで先日「旧約の時代で最も謙遜だったと言われる人は？」という質問がありました。答えはモーセだそうです（民数記 12 章 3 節）年齢を経るごとに主の言葉に忠実である姿は今も感動をくれます。

MLC の初期の頃からの奉献者である I さんに伺ったマリアニストとしての道をお伝えします。「私は以前韓国での東アジア地区 MLC 会議に、数人と共に参加し大いに触発され、FMI のシスター高尾にも出会えました。また、「世界マリアニスト祈りの日」が長崎であった時、韓国の MLC の人たちと共に、被爆マリアの像がある浦上天主堂で祈り、またシャミナード神父様の福者列福式（ローマ）ではその場で祝い、祈れました、どれも意味深い旅での出来事でした。」

そして今、I さんは次のように述べられています。「オンラインだけでなく直接皆さんと会ってつながりたいと思っています。そしてこれからの MLC にとって最も大切なのが深く人同士が繋がるということだ

と思っています。」お年を召した先輩のこのシンプルな言葉は響きます。そして「まっすぐ前を見つめて神様が企てて下さる道に勇気をもってマリア様とともに MLC を育てて行きましょう！」と。歳を重ねて行くにつれ信仰を味方にした人たちはその輝きがおもてに現われる様です。

最後にこのように言われました「イエスさまと、その弟子たちが歩んだ道を、傍らからいつも心を留めておられたマリア様と共に、MLC みんなで歩いていきたいものです」

文責：鈴木



被爆したマリア像

## MLC ニュース

昨年度（令和2年度）からの MLC の活動の柱となったものをふり返ります。

★教会憲章を読む会（対象：一般、MLC）

指導：Fr. 清水一男 場所：シャミナード会議室  
時間：10:30～16:00

令和2年、7/18、9/19、10/17、11/14、  
令和3年、6/26、この講座は全5回で終了

講座には外部から5名、MLCからは6名が参加しました（その他、数名申し込みがありましたが高齢ということから不参加でした）

★モデレーター講座

これから共同体を導くために

対象：MLC

指導：Fr. 清水一男

ZOOMによるミーティング形式

時間：14:00～16:00

令和2年、7/25、9/26、10/31、11/28

令和3年、11月以降に予定

全5回で終了の予定



★MLC 秋の予定

10/10(日)はマリアニスト家族の集い、奉献式の予定でしたが8/19の三枝の協議の結果、残念ですが中止が決定されました。2名の奉献準備されている方々にとっては二度の延期となっています、どうぞお二人の為に祈りください。

11月には例年、慰霊祭が調布修道院で行われていましたがこちらもその後のコロナの感染状況次第です。また今年お亡くなりになられた、執行部で長年奉仕された林まさみさんの追悼ミサも予定してありましたがこちらも未定になっております。

このような状況下で各共同体の繋がり状況も気になる所です。ただし共同体の個々のメンバーでは出来る範囲でボランティア活動が続いているというお話も聞いていますのでマリア様の下、見えない糸で祈りや思いは繋がっていると確信しています。

★MLC 世界大会について

来年2022年6月にスペイン、マドリッドで開かれます。日本からも代表者を送りたいと考えています。前回ソウルで開かれた世界大会に引き続き日本 MLC も世界の中での発信ができるよう歩みたいと思います。また北米地区からのアジア地区としての独立も進めたいと思っています。（平田会長）

共同生活をしている修道者達が行なっている年の黙想と同様、在俗会であるアリアンス・マリアルに於いても、会員は年に一度1週間程度の黙想をすることが、会憲で定められている。私は毎年夏の初めに、町田のFMIの黙想の家で行なっている。

先日ある人から、「都内に黙想の家は他にもいくつかあるのに、どうして毎年、町田の黙想の家で黙想を日頃～しているのか」と聞かれた、私は即座に、「日頃殆ど会うことが出来ない、同じマリアニスト家族のシスター達と共に、祈り、ミサに参加することは、年の黙想によって、深い祈りの中で神様やマリア様と過ごし、マリアニストとして、アリアンスの会員として生きる喜びや恵み、使命を再確認することと同じくらい、大切に思っているから」と答えた。実際、私にとって、町田の黙想の家で黙想をすることは、マリアニストとして、マリア様を中心とした霊的な家に里帰りする様なものである。シスターの皆様は、そんな私の気持ちに答えるように、とても暖かく私

を迎えて下さる。今年も、遅い到着にも関わらず、院長様が笑顔で迎えて下さり、どのシスターも私との再会を心から喜んで下さった。連日の三度の食事も、明らかに私の為に特別に心を込めて用意して下さっていることが伝わってきた。

そして、この聖堂は私が初誓願を宣立した場所である。今でもこの聖堂で祈る度に、SM、FMI、MLCの会員達、来日したAMの責任者の立ち合いの下、FMIの修練者達と共に初誓願を宣立した時の事が、昨日の事のように、蘇ってくる。今年はこの時に一緒に初誓願を宣立したシスターと、分かち合いの時を持つことも出来た。

そして黙想が終わり、黙想の家を出た時、私のアリアンスの会員としての全ての養成に関わって下さっているシスター小林は、玄関先で私の姿が見えな

くなるまで、見送って下さった。

シスターの皆様のお陰で、今年もとても心温まる黙想を行なうことが出来、心からの感謝のうちに家路に着いた。



## FMI ニュース



### 1. 大黙想

- ①ベトナム人姉妹のための大黙想(7月20日～29日)、  
指導：サレジオ会、ラップ春山師
- ②日本人対象の大黙想(8月9日～18日)、  
指導：カルメル会、中川博道師
- ③高齢者姉妹対象の大黙想(10月12日～17日)  
カルメル会、中川博道師のCDによる黙想

### 2. Sr. チャウとSr. ニュオンの終生誓願式

7月31日(土)10:30、晃華学園聖堂にて。  
司式：菊地 功 東京大司教、他10名の司祭による  
共同司式で行われました。  
ベトナム在住のご家族やゴヴァップ共同体の姉妹  
たちは、現地でライブで式に参加されました。

### 宣教センターより

#### 半日、オンライン黙想会のお知らせ

- ① 9月20日(月)指導：小田 武直師(町田教会助任司祭)  
テーマ：「マリア様についての教会の教え  
～私たちの信仰を支え、力づけて下さるマリア様～」
- ② 10月24日(日) 指導：清水一男師(マリア会)  
テーマ：「マリアと教会」

\*時間：①、②回 10:00～12:00

\*費用：①、②回 無料

●申し込み：黙想日、一週間前までに、メールにて  
お申し込みください。申し込まれた方には、後日、  
ZOOM 情報をお知らせします。

e-mail : marianist@marianist.jp

担当：Sr. 小林 幾久子

### ◎ MLC からのお知らせ

MLCとしてのホームページがあります。  
スマホのスタイルで手軽に見ることができます。

URL : <https://www.cafemlc.org>

ホーム(MLCの年間目標、チャレンジ目標、養成プログラム…)、  
お知らせ、マリアニストの祈り、ブログ、動画  
などがご覧になれます。

MLCを紹介するときなどに、ご活用ください。



■発行：日本マリアニスト家族評議会

問い合わせメール：marianist@marianist.jp

ホームページ：<http://www.marianist.jp/>